

アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*

文：芦澤 淳（（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）



アメリカザリガニは北米原産の外来甲殻類である。国内においては、天敵や競合種が少ないこともあり、原産地の生息環境に類似した水田環境を中心に、日本全国の水辺に侵入している。侵入先で個体数を増やし、在来生物の捕食や水田漏水など、さまざまな問題を引き起こしている(荻部・西原 2011)。

アメリカザリガニの問題 オオクチバスが生息するため池で、池干しによりオオクチバスを駆除すると、在来魚類やエビ類が増加する。一方、アメリカザリガニも増加するため、アメリカザリガニの捕食により水生植物が減少し、水生植物を産卵基質として利用するトンボ類が減少することが報告されている(Maezono & Miyashita 2004)。このように、アメリカザリガニが生息する池でオオクチバスを駆除する場合、その後のアメリカザリガニの生息状況を注視する必要がある。アメリカザリガニの増殖が懸念される場合は、駆除を実施する必要がある。



写真 1. カニ籠

伊豆沼・内沼における対策 伊豆沼・内沼では、駆除活動によりオオクチバスが減少傾向にあり、今後アメリカザリガニが増加する可能性がある。そのため、現在はアメリカザリガニの生息状況のモニタリングと駆除技術の開発を行なっている。駆除技術の開発では、カニ籠(写真 1)を用いた駆除を行なっており、小規模な水域ではアメリカザリガニの個体数を抑制できることが明らかになった(写真 2)。



写真 2. 駆除を実施したため池

荻部治樹・西原昇吾. 2011. アメリカザリガニによる生態系への影響とその駆除手法. 川井唯史・中田和義(編). エビ・カニ・ザリガニ-淡水甲殻類の保全と生物学. pp. 315 - 328. 生物研究社, 東京.

Maezono, Y. & Miyashita, T. 2004. Impact of exotic fish removal on native communities in farm ponds. Ecological Research 19: 263-267.